

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年8月27日

【評価実施概要】

| | |
|---------------|---------------------------------------|
| 事業所番号 | 4073200273 |
| 法人名 | 株式会社 裕生堂 |
| 事業所名 | グループホーム 陽だまり倶楽部 |
| 所在地 (電話番号) | 福岡県大野城市南ヶ丘2-1-12 (電話) 092-596-5000 |
| 評価機関名 | 社団法人 福岡県介護福祉士会 |
| 所在地 | 福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F |
| 訪問調査日 | 平成21年7月27日 |

【情報提供票より】(平成21年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

| | |
|--------|-----------------------|
| 開設年月日 | 平成 15年 12月 1日 |
| ユニット数 | 2 ユニット |
| 職員数 | 19 人 |
| 利用定員数計 | 18 人 |
| 常勤 | 16人, 非常勤 3人, 常勤換算 17人 |

(2) 建物概要

| | | |
|------|--|--|
| 建物形態 | 併設 <input checked="" type="radio"/> 単独 <input type="radio"/> | 改築 <input checked="" type="radio"/> 新築 <input type="radio"/> |
| 建物構造 | 木造 | |
| | 2階建ての | 1階 ~ 2階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---------------------|--|------------------------------------|--|---------|
| 家賃(平均月額) | 57,000~65,000 円 | その他の経費(月額) | 円 | |
| 敷金 | 有() 円 | 無 <input checked="" type="radio"/> | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有 <input checked="" type="radio"/> 200,000 円 | 有りの場合 償却の有無 | 有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/> | |
| 食材料費 | 朝食 | 300 円 | 昼食 | 400 円 |
| | 夕食 | 500 円 | おやつ | 食費に込み 円 |
| | または1日当たり 円 | | | |

(4) 利用者の概要(平成21年6月1日現在)

| | | | | | |
|-------|---------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 17 名 | 男性 | 0 名 | 女性 | 17 名 |
| 要介護1 | 3 名 | 要介護2 | 3 名 | | |
| 要介護3 | 3 名 | 要介護4 | 4 名 | | |
| 要介護5 | 4 名 | 要支援2 | 0 名 | | |
| 年齢 | 平均 84 歳 | 最低 | 75 歳 | 最高 | 97 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|-------------|
| 協力医療機関名 | いまさと内科、大賀歯科 |
|---------|-------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は通りから少し入った閑静な住宅地に位置し、公民館や商店街も近く、暮らしやすい環境に恵まれている。薬局を経営する法人を母体とし、代表者が介護老人福祉施設の立ち上げや運営で高齢者ケアに関わる中で、その必要性を感じて創設されたホームである。今年6月に有料ホームや姉妹ホームも新設されている。地域の協力や交流は良好で、地域行事に参加したり、ホーム行事に招いたり、年2回ホームの広報紙を回覧板で回覧してもらっている。利用者の表情は穏やかで明るくゆったりとしており、代表者の理想とする理念がしっかりとホーム運営に浸透している。職員の離職も少なく、「ふれあい豊かな地域の中でゆったりと楽しく、健康で生き生きとありのままに過して欲しい」と管理者、職員は誠心誠意支援している。

【重点項目への取り組み状況】

| | | |
|------|---|---|
| 重点項目 | ① | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価では数箇所の改善提案があった。評価結果は職員や運営推進会議に報告し、関係者からの意見を聞きながら全職員で改善に取り組んだ。地域交流、家族会の設立、終末期ケアへの取り組み、職員教育などの具体的な改善が行われ、サービスの質の向上が図られている。前回の評価はファイリングし、いつでも見られるようにしている。 |
| | ② | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価を「初心にかえり利用者向き合い、客観的にケアを見直す機会」と捉え、全職員が話し合いながら全項目に記入した。管理者がそれをまとめて職員の意見を聞き、作成を行った。作成の過程でいろいろな気づきがあり、日頃のケアの振り返りができている。 |
| 重点項目 | ③ | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は家族代表、区長、民生委員、福祉推進委員、市の担当職員の参加で、2ヶ月に1回定期的に開催されている。地域との交流、利用者の状況やヒヤリハット報告、ホーム行事の予定と実施報告、外部評価の報告などがなされている。ホームの抱えている課題や問題を提起し、具体的な助言や提案を受けている。地域住民の理解や協力、行政との情報交換、家族との連携等により、地域交流や家族会設立、看取りの指針作成等のサービスの質の向上に活かされている。 |
| | ④ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9) 毎月「陽だまり通信」を発行し、利用者の近況報告や金銭報告と共に家族などへ郵送し、状態に応じ電話で連絡を取っている。日頃から家族が話しやすい雰囲気作りに努め、家族訪問時は本人、家族と3者の話し合いを持ち意見を聞いている。また、家族会を設立、家族代表が家族意見を取りまとめて提言し、運営に反映させるしくみがある。出された意見にはすぐに対応し、公的な相談機関の掲示や説明も行っている。 |
| 重点項目 | ④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 福祉に関して地域の住民の理解や関心は高く、公民館の隣に位置していることもあり、地域との交流は盛んである。自治会に加入し、老人会や地区の祭りには席を準備して招待を受けたり、折にふれ区長、民生委員の声かけを受け、近隣の人からは花苗を頂いたりする。また、恒例となっているホームのバザーや餅つき大会にはボランティアをかねた地域の方々が集まり、保育園児とのクリスマス招待交流も行っている。年2回ホームの広報誌の回覧を行い、地域とのふれあい豊かな生活を目指している。 |

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|---|---|------|----------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 設立時に法人代表が考えた理念を職員と話し合い、①老人介護の社会的使命に徹する。②地域医療の一翼を担うと言う自覚を持つ。③お年よりは自分がいつかは通る道、誠心誠意お世話する。④地域との交流を図り、ふれあい豊かな施設作りを目指す。という地域密着型サービスとしての理念を掲げている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 理念は玄関の見やすい所やスタッフルームに掲げられている。日々の暮らしの中で理念に添った介護が行えるよう、毎朝のミーティングや毎月の職員会議で話し合いや確認を行い、利用者が元気で生き生き、楽しく豊かに暮らせるよう実践に取り組んでいる。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 地区の自治会に加入し、区長、民生委員から折にふれ声かけを頂いている。地域の老人会や夏祭りには席を準備して招待を受けている。ホーム主催のバザーや餅つき大会にはボランティアを兼ねた地域の方々の参加があり、クリスマスには近くの保育園児を招待するなど地域との交流に努めている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 自己評価は「初心に戻り客観的にケアを振り返る機会」と捉えており、全職員が記入したものを管理者がまとめ、職員の意見を聞き作成している。外部評価の結果は運営推進会議に報告して職員で話し合い、家族会設立や終末期ケア、職員研修等具体的な改善に取り組み、サービスの向上を図っている。 | | |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 家族代表、区長、民生委員、福祉推進委員、市の担当職員の参加で、2ヶ月に1回開催されている。地域との交流、利用者の状況やヒヤリハットの報告、ホームの行事予定・実施報告等を行い、助言や提案をもらっている。外部評価の報告を行いホームの課題について相談し、具体的な貴重な意見をサービスの質の向上に活かしている。 | | |
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 市の窓口へ訪問したり、電話で担当者と連絡を取っている。利用者の状況報告を行い、ホームの抱えている問題について相談し、入居の情報や介護保険更新時の意見書などの情報を得ている。また、市担当者からの電話質問に助言するなど、お互いに情報交換を行っている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|---|---|------|--|
| 7 | 10 | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している | 管理者が外部研修に参加して職員に報告や内部研修を行い、制度について学習している。関係機関の情報書類を取り揃え、必要な方には利用できる支援体制を整えている。現在1名の成年後見制度の利用があるが、他の家族には特別に説明や啓発は行っていない。 | ○ | 現在は家族の支援体制がしっかりしていて、他に利用する方はいないが、今後は利用開始時や家族会総会などで制度の説明を行い、家族への啓発に取り組むことが望まれる。 |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 8 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 毎月、陽だまり通信を発行し、領収書を添付した金銭報告書、管理者が利用者の状況などを伝えるメッセージを添えて郵送している。また、家族の訪問時は必ず話し合いの時間を持ち、利用者の健康状態や日頃の暮らしぶりを伝え、状態変化のある時は随時電話で連絡している。 | | |
| 9 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族会を設立、9月に総会を予定している。家族代表が窓口となり、日頃の家族の意見をまとめ運営に反映するしくみがある。管理者や職員は家族が話しやすい雰囲気を作り、訪問時は本人、家族3者で話しをしている。意見箱の設置はないが、玄関に公的な相談窓口を掲示、説明を行っている。 | | |
| 10 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 代表者は職員の異動は行わない方針で、ユニットの職員を固定し馴染みの関係が築けるよう配慮している。離職者は少ないが、今年は関連施設新設のため数名の異動があり、数ヶ月間は新任者と重複しての勤務体制で対応し、利用者への影響はなかった。新職員には個別指導を行い、利用者との信頼関係が作れるよう支援している。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 11 | 19 | ○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 職員の採用には年齢や性別を理由に採用から排除することはなく、男性職員もいて職員の年齢層も20歳～60歳と幅広い。運営者は働きやすい職場作りに配慮し、職員の育児休暇や有給休暇消化を奨め、職員は海外旅行に行ったりリフレッシュしたり、安心して子育てを行っている。職員が能力を発揮できるよう一人ひとり個別の配慮がなされ、柔軟な勤務調整を行い「生き生きと楽しく」をモットーに支援している。 | | |
| 12 | 20 | ○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 法人の人事担当者が人権教育セミナーに参加し、管理者に伝達教育を行い、職員にファイルした資料やレポートを回覧している。また、管理者や職員は「接遇とマナー」の研修会に参加し、日常生活や話し合いの場でお互いに注意し合い、利用者の人権尊重に取り組んでいる。 | | |
| 13 | 21 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 県のグループホーム協議会に入会し、主催の研修会には積極的に参加している。新任職員には新任教育担当者がマンツーマンで指導している。職員の段階に応じて研修情報や参考資料を提示し、資格取得のための研修参加等を奨めている。今年から計画を立て内部研修を行うことにしている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|--|--|------|----------------------------------|
| 14 | 22 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 管理者や職員は県のグループホーム協議会の研修等で他事業所職員と情報交換を行っている。また、地域の同業者の施設を訪問・見学したり、同業者主催の「看取りのケア」の研修に参加し、ホームでの取り組みに活かしている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 15 | 28 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 管理者は入居前に自宅などへ3、4回事前訪問を行って顔馴染みになり、本人、家族と共に見学に来てもらっている。他の利用者と一緒にお茶をいただき、ホームの雰囲気を感じてもらっている。入居してからは職員全員で声かけを多くして気を配り、ゲームなどで他の利用者と馴染めるよう工夫している。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 16 | 29 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 調理や園芸など利用者に教えてもらいながら、職員は家族のような雰囲気の中で、人生の先輩として気持ちを込めて接している。利用者の人生経験豊富な話の中から気づかされることも多く、リハビリ等での前向きな態度に職員は元氣や励ましをもらっている。 | | |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 17 | 35 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居前に本人や家族等と面談を行い、生活歴や趣味、希望等の情報提供を受けている。利用開始後も日々の関わりの中で発する言葉や行動から、思いや意向の把握に努めている。思いを上手に伝えられない方は表情やしぐさ等から思いを汲み取り、家族等から本人の意向に関する情報を得よう努めている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 18 | 38 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 担当職員が本人や家族から要望を伺うと共に、他の職員の気づき等の情報提供を受け素案を作っている。計画作成担当者がその内容について本人や家族に説明を行い、新たな要望や意向等の追記がないか話し合いながら、本人や家族の声が反映された介護計画を作成している。 | | |
| 19 | 39 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 毎月、職員会議で介護計画の実施状況の把握と評価を行い詳細に記録に残し、計画の期間に応じて見直しを行っている。状態変化が生じた場合は、本人、家族、医療関係者、職員等と話し合い、現状に即した介護計画の作成に取り組んでいる。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------------------|----|---|---|------|----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 20 | 41 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 入院時の見舞いや洗濯物の持ち帰り、リハビリテーションや受診の付き添い、自宅や馴染みの店、趣味活動の集まりの場へ送迎を行い、これまでの暮らしの継続を支援している。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 21 | 45 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | これまでの医療機関の受診を優先しているが、本人や家族等の希望により協力医療機関に変更する方もおられる。家族の受診支援がある場合でも可能な限り職員が同行して日頃の状況を伝え、受診結果に関する情報を共有している。月2回、協力医療機関の訪問診療を受け、24時間対応可能な医療受診体制を整えている。 | | |
| 22 | 49 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 早い段階から本人や家族等にホームで対応できる支援方法について説明を行い、意向を把握している。本人、家族等、医療関係者、職員等で十分に話し合い、重度化や終末期に向けた方針を共有し、希望に添えるよう対応している。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 23 | 52 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 年2回、外部から講師を招き「接遇とマナー」について受講し、利用者の尊厳を支えるケアの大切さを共有している。食事介助時も目立たないようさりげない声かけがなされており、誇りやプライバシーに配慮した対応ができています。記録等の個人情報は鍵のかかる所定の場所に保管、管理されている。 | | |
| 24 | 54 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 食事時間を中心に大まかな一日の流れはあるが、一人ひとりの思いを最優先にこれまでの暮らし方を支援している。居間兼食堂から利用者と職員の笑い声が聞こえ、ゆったりと安らぎのある時を過ごしている。思いをうまく伝えられない方には表情やしぐさから推察し、心地よいと思える過ごし方を支援している。 | | |
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 25 | 56 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | その日の献立は利用者と相談しながら決めている。食材購入から下準備、後片付けに至るまで、それぞれの得意分野で職員と一緒にやっている。職員は介助の必要な利用者の隣に座り、食が進むように支援している。食材の調理方法を話題にしながら、和やかな雰囲気ですべての職員で同じ物を一緒に食べている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------------|----|---|---|------|----------------------------------|
| 26 | 59 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 利用者の体調と希望を確認して、毎日午後から、個別に合った入浴を支援している。入浴を好まない方には無理強いをせず、タイミングを見て声かけを行ったり、足浴などの支援を行っている。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 27 | 61 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 食材購入、洗濯物たたみ、掃除等の家事一般を、家族の一員として自然体で参加し活躍している。希望により、算数や歌に合わせて打楽器の演奏、馴染みのある文学作品の音読等をレクリエーションとして採り入れている。時々利用者の希望を伺い喫茶店やカラオケルームへ出かけ、気晴らしの支援をしている。 | | |
| 28 | 63 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | その日の天候や体調に配慮しながら、日常的に散歩や買い物などの支援をしている。また毎月、車椅子対応の2台の車を利用して、利用者と相談しながら温泉、買い物、外食などへお洒落して出かけている。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 29 | 68 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 日中玄関は開放されており、自由に出入りできる。利用者が外出しそうな時は引き止めずに職員が後を追い、一緒に近所を散歩して帰るよう工夫している。職員同士で利用者の様子や所在を確認しあい、安全面に配慮しながら自由な暮らしを支援している。 | | |
| 30 | 73 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | マニュアルを作成し、消防署の立会いで利用者と一緒に避難訓練を行い、避難経路と避難場所の確保、緊急時の誘導方法等を身につけている。運営推進会議を通して、地域の方に災害時の援助協力をお願いしている。夜間想定訓練を含め、年3回の訓練を計画している。 | | |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 31 | 79 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 利用者一人ひとりの食事や水分摂取状況が記録されており、全職員は情報を共有している。医療関係者と疾患や体重増減等の相談をしながら、個別に合わせた支援を行っている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 32 | 83 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ホーム内は転倒時の衝撃をやわらげるコルク材が随所に使われており、掃除が行き届いている。利用者が作業をしやすいように腰高の位置に菜園を作り、季節の野菜や花が植えられている。利用者が集う居間兼食堂は広いスペースとは言い難いが、無駄な装飾がなく、ゆっくりと落ち着ける生活感と安心感がある。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----|----|--|---|------|----------------------------------|
| 33 | 85 | <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> | <p>馴染みの日用品や思いのこもった位牌、遺影や写真、鏡台、好きな俳優のポスター等を配置し、家族と相談しながら、本人が安心して居心地よく過ごせる場所となるように工夫している。</p> | | |